

2003年3月号

Enfanter ● No.286

# あんふぁんて

Enfanterとはフランス語で  
 刊行物 ①子を産む ②(計画などを)考え出す ③(作品などを)創り出す。の意

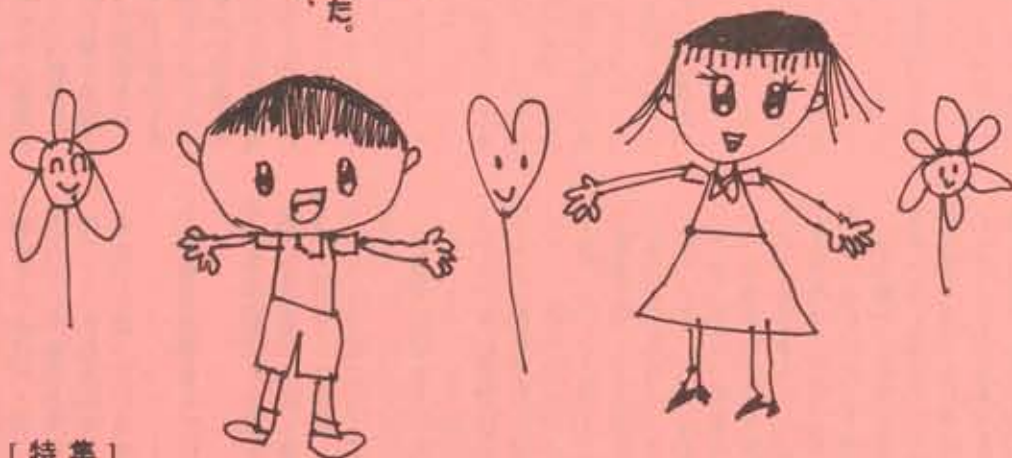
153.06 税

再就職のきっかけは何？

・経済的な理由から  
 ・働く母に育てられた私にとって、  
 仕事をすることは自然。  
 ・ただの主婦はつまらない、  
 子育てはつまらない……  
 ・と思いこんでいた。  
 ・今はそうじゃないと知っただけで、  
 子どもと一日中家にいて  
 育児に追われていると、  
 取り残された様な気持ちになる。  
 ・経済的な理由もあったが、  
 夫と対等でないことが、  
 ・育児だけの生活からそろそろ離れ、  
 自分の時間、自分の場所、  
 自分で自由に使えるお金も欲しかった。  
 ・元々働き続けることが希望だったが、  
 出産でやむなく退職した。  
 ・働きたいのはやはり自分のため……  
 ・というのが一番大きい。

(アンケートより)

イラスト 西尾 (六歳)



[特集]

再就職 はじめの一步 —それぞれの歩み

p2

・平和な世界を創るために

p9

・あんふぁんてイベント報告

p10

・あんふぁんてからあんふぁんてへ

p11

・情報コーナー

p12



## 特集

## 再就職 はじめの一步

— それぞれの歩み



今回の特集は、様々な理由で一度離職した女性がどんな思いで何を契機に再就職するのか知りたい！そんな個人的な思いから始まりました。

アンケートには再就職を経験した人、継続して働いている人、現在は家庭に居る人、就職活動中の人と色々な立場から声を寄せていただきました。再就職のきっかけは表紙で紹介した通り様々、再就職までのプロセスもまさに十人十色でした。そして働く事への思いを書いて下さる方が多数でした。そこで今回は集計結果や断片的なコメントより一人一人の生の声を紹介する方が良いのではないかと、異なる立場の人に、自分にとっての仕事、再就職を語っていただくことにしました。この特集を読みながら、皆さんそれぞれが自分の場合に置き換えて、気持ちを再確認するきっかけの一つになればと思っています。

(小諸市)

## ○内なる声を聞きながら

岡山市

三人の子どもの育児休暇で丸三年と長男が病気をして半年の介護休暇。そんな休みをとりながらも、二十年間、なんとか働き続けることができたのは、家族や職場の仲間をはじめとした周りの人たちの支えのおかげでした。仕事は自分の中の生活の一部だったけれど、いつも、働くことの意味や、自分の成長、やりがいや、得る金銭と、そのためになくす時間や金銭には換えられないモノコトを天秤にかけてきました。

今、改めて思うのは、自分にとって仕事はどういう意味合いをもっているかが大切であるということ。たとえば、こどものために仕事をやらない、という選択ではなくて、こどものために仕事をやらない自分が自分の生き方において大切である、と思えば、その時期は無理して働くことはないし、反対に、片付いた家の中でのんびりとお茶を飲みながら趣味の時間を過ごすより、職場できりぎりしなからも何かを作り上げていくほうが、自分の成長になるはずだと思ったらその時が働き時なのかもしれない。

どちらがよい、どちらが正しいではなくて、今の自分にとってどうすることが一番心地よくて必要だと心底思えるかということではないかなあ。金銭は、とても大切なことだろうけれど、それだけのために時間の切り売りをするような働き方だとしたら、結局は空虚なものになるのではないかと思います。

同期の子持ち友達が、子育てが半分終わった今になって職場を去り、ああ、そのような

選択もあるんだ、と思えたことで、ココロがやわらかくなっている自分を感じます。今は働いているけれども、一年後はわからない。自らの心内なる声を素直に聞いて、自分を信じて、これからの人生の道を作り上げていきたいと思っています。

## ○在宅で仕事をしています

北区

在宅で翻訳の仕事をしていましたが、今は第三子妊娠中で少し体調がよくないため、あまりにストレスの多い翻訳の仕事は休職して、今はテープ起こし(日本語)の仕事をしています。

在宅で翻訳をやっていると思ったのは第一子(もうじき七歳)が産まれるすぐ前のことです。それまでは会社の中で翻訳をするかたわら、翻訳学校に通っていました。そして一人でもやっていたところの自信を得て、退職しました。ところが、その途端に初めての子を妊娠してしまいました。駆け出しの身ですから、土日もなく一日中パソコンに向かっていたのですが、やはり妊娠中だからあまり無理はできません。徹夜をすればできたものという仕事を泣き泣き断らざるを得ないということもありました。(独立したばかりの者は、どんな仕事でも受けないと次の仕事につながるという恐れがあるためです)

出産後は二年間は育児に専念してその後仕事を再開しましたが、じきに第二子妊娠、出産でまた満足な仕事はできませんでした。この子のときは生後半年くらいから夜中に仕事をしました(きつかったですね、体力的に)。

一歳でようやく保育園に預け、昼間働けるようになって二年、今回の妊娠です。こんなふうには私の場合はどちらかというと、子育てを優先にした仕事パターンで、収入面は微々たるものです。しかし、仕事に専念できるまでのつなぎの時期と割り切って、翻訳の勘を鈍らせないためにやっているとついてもいいです。今妊娠中の子が一歳になってまた保育園に入れたら、今度はこそはもう少し本格的に稼働したいと思っています。

## ○家族のバランス

大阪市

仕事について考えるとき、自分にとって、夫或いは息子にとつての私の仕事という三つの面を考えさせられます。出産のため仕事を辞めて、落ちこんだ日々。四年後ようやく薬局で調剤の仕事に就いて、パートで五年、今は別の薬局で正職員で働いて一年たちました。毎日時間が足りなくて四苦八苦しているし、勉強もしなければならぬけれど、それがやり甲斐にもつながっています。

常勤になると、一番気になったのは、私の帰宅が息子(小五)よりも遅くなることでした。当初は「前の薬局の方が早く帰れてよかった」などと言っていましたが、実際はそれほど心配することもなかったです。それでも連日息子より帰宅が遅かったりすると、「こんなに仕事したいわけじゃないんだけど」と思う事もしばしば。五年生になっても母親は来たい年(精神的に)なんでしょうね。息子が不満を言わないことに甘え過ぎてはい

けないと思ったり(これは過保護?)。

でも、仕事をせずにはいたら、私は一人で家事をやることになる(今じゃ夫のシャツのアイロンかけも、息子の靴洗いやしない)。夫だって、私が七時までのシフトの日は、早めに帰宅するが、それも私が専業主婦ならあり得ないことです。だから、私が仕事をしたら家族のバランスがとれていいのだ、と思うことにしています。

正社員になって感じるのは、生活のための収入を得るといふのはかなり大変なこと。それに、好きな仕事でも、家族を養うために仕事をずっと辞められないとすれば、それは相当なストレスでしょう。何かの理由で仕事(会社)を辞めたい時(今時だから会社がつぶれるというのもあるか)、多少はお互いをアテに出来るような夫婦だといいな、と思っています。

## ○私と仕事

静岡市

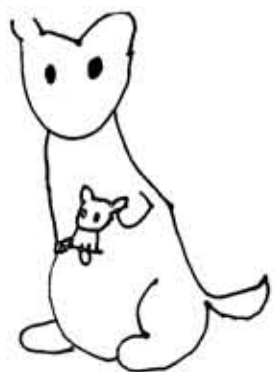
共働きで忙しかったけれど親子三人楽しんでいたのに、私が仕事をやめる事になったきっかけは、第二子妊娠中つわりがあまりにもひどかったためです。普段から臭いには敏感になっていたのに、職場がレストランというところもあって、更に悪化し、寝込むほどでした。余談ですが、里帰り分娩することになって病院を替えた時、医師に入院治療が必要だったと言われたほどでした。話を元に戻します。その頃お客さんに夫のコックとしての腕を見込まれ、新しいお店に移ることが決まっていたので、産後は娘の様子を見て

お店に復帰する予定でした。因みにお店は輸入住宅の一角をレストランにするというものでした。

夫はお店の設計の段階から立ち会いたいという希望をもっていたので、お店の近くに引越しをしたにもかかわらず、新経営者となる方が急死してしまい二人で呆然としてしまいました。結局そのお店はダメになってしまい、状況が一転してしまつたので、私たちの生活は大きく変化しました。

今私は検査という今まで経験したことのない分野の仕事をしています。主に目視で製品の外観検査をする仕事ですが、顕微鏡や測定器を使う場合もあります。仕事の量はその日によって違うので、しんどい時もありますが、限られた状況の中で一番興味があった仕事という点と、職場の人に恵まれ充実しています。

保育園に関しては、親しい友人が保育士だったので、上の子の時に細かなことまで相談にのってもらっていたので、下の子の時は安心して預けることができました。私にとって仕事は生活の一部ですが、気持ちにゆとりを持つためのものでもあるのです。





○自分を知ること

あんふぁんてに入会したの十四年前、私は子育ても主婦もつまらないと思いついて、経済的自立へのこだわりで、呼吸をするように一生働き続けたいと切望した。まだ独身で楽しそうな友人が多かった。社宅の中で保育に預けているのはフルタイムの公務員くらい。私は我慢できずに幼稚園の友人と預け合いをし、家に仕事をもち込んで働いた。子供が喘息になると休むのは私で夫ではない事がすごく不満だった。そして無理は続かず、夫の単身赴任などが重なった末にダウニングして半年くらい動けなかった。当時の私は白か黒かしかなくて、ダッシュと走ってガックリ休むことばかり。その後数年、お金はなくても好きなことをやろうとしたが、先のこと考えずに社宅を飛び出して金底をつき、挫折。たまたま社宅に戻れて息をついた。

休んだ後に憧れたのは、映画「Shall We Dance」の渡辺えり子扮するオバサンが、趣味のダンスに入れ込むために并当屋(?)で働くスタイルだ(この人が過労で倒れるストリーは忘れていた)。で、丸二年、寒がりな低血圧の私がスーパの食肉部門で午前中だけ肉切り包丁を振り回し、「似合わないなあ」と職人さんに笑われて悔しかった(アホの負けず嫌い)。単調な仕事は人間関係で疲弊していた私には救いだっただけ、シャルウィダンスは無理だった。二十代の頃、仕事の外に思い切り好きなことをしたテンションはもうないこと分かったのだ、倒れる前に諦めさせて頂いた(もちろん出来る人もいるのよ)。

ただ、この職場の人々は自分を知っていたような気がする。家の近所で短時間こそその時給で家計を助ける(または助けねばならない)という人。特別やりたい事がなくて家に居ても寂しいからという五十代の主婦。その割り切り方は、ある意味大人の分別みだに思えた。結局、夫が居て食ってこられた贅沢者の私が、ようやく「自分の等身大」と「足るを知る」ことを意識したのはこの数年だ。昨年から始めた在宅仕事の収入は非常に少ないが、好きな分野という折り合いがついている。今でも好きな仕事で経済的に自立する夢は素敵だと思っただけ。

私もバカだったなあと思っただけ。さあ、バカをやらなきやリコウになれないのは悲しいが、つくづく、やってみなくちゃ体得しない事の多さよ。沸いたエネルギーは捨てるわけにいかないの、働きたくて悶々としたり、チャンス到来と感じたなら、動いてみるしかない。

○再就職

奈良市

結婚退職して、出産、育児と約二十年ほど専業主婦として家にいた私。子どもが小学校ぐらいまでは「たいたい」と帰ってくる時間には家にいておいたほうがいいかと思っていました。小学校に慣れるのに時間がかかるだろうと思っていた末も、親が驚くほどの早さで小学校に慣れていきました。

そんな時、母親に依存的な末っ子が見えてくるようになりました。私も必要以上にかまっている自分がいまいました。外に出て、仕事に

収入だけでもどうにか食べていけるのなら尚のこと、外に踏み出す一歩は険しい。「あなたの子どもが保育所に入れたことで、本当に必要な人が福祉を受けられなかったかもしれないよ、夫の収入だけで食べられるあなたなのに、何で演奏に値段をつけるの?」と言われたこともあった。何も言い返せなかった。あれから丸七年たつて、当時の悩みは吹っ切れたけれど、次への思いに終わりは無い。十年選手になれるかどうか。そのために、次に踏み出す足はどっちへ?

アンケートから

●働いていると言ったら、いいないいな攻撃を受けたことがあり、面倒だった。

●仕事も子育ても半々の私は、時間の融通が利く、残業がないなどのメリットがある反面、給料は待遇が悪いというデメリットがある。百パーセントを目指さずに、仕事も子育ても妥協が必要。

●再就職して初めの頃は、働かなくて食っていけないというわけでもなく、気楽だった。子どもにお金がかかるようになり、夫も仕事をやめた今は必死。それでもあわてないで済んだのは私が働いていたから。自分の仕事を持っているという事は、女性にとっても必要だと思う。

●自分には主婦業よりも、働いているほうが向いているのだということが分かった。

た、この職場の人々は自分を知っていたような気がする。家の近所で短時間こそその時給で家計を助ける(または助けねばならない)という人。特別やりたい事がなくて家に居ても寂しいからという五十代の主婦。その割り切り方は、ある意味大人の分別みだに思えた。結局、夫が居て食ってこられた贅沢者の私が、ようやく「自分の等身大」と「足るを知る」ことを意識したのはこの数年だ。昨年から始めた在宅仕事の収入は非常に少ないが、好きな分野という折り合いがついている。今でも好きな仕事で経済的に自立する夢は素敵だと思っただけ。

私もバカだったなあと思っただけ。さあ、バカをやらなきやリコウになれないのは悲しいが、つくづく、やってみなくちゃ体得しない事の多さよ。沸いたエネルギーは捨てるわけにいかないの、働きたくて悶々としたり、チャンス到来と感じたなら、動いてみるしかない。

○再就職

奈良市

結婚退職して、出産、育児と約二十年ほど専業主婦として家にいた私。子どもが小学校ぐらいまでは「たいたい」と帰ってくる時間には家にいておいたほうがいいかと思っていました。小学校に慣れるのに時間がかかるだろうと思っていた末も、親が驚くほどの早さで小学校に慣れていきました。

そんな時、母親に依存的な末っ子が見えてくるようになりました。私も必要以上にかまっている自分がいまいました。外に出て、仕事に



出たほうがいいのかといつも頭の片隅にありました。が、私自身、やりたいこともあるし、家事も得意ではないので両立できる自信もなく、なかなか決心がつかない状態が続いていました。

そういう状態の中で夫から、すぐ近くのせんべいやさんで求人広告が出ているというのを聞いたのです。年齢もぎりぎり、もうこれしかないという思いと、だめでもともとだという思いとで、そのお店を訪ねたのが昨年の十二月二日。一晩考え、家族にも相談して翌日の三日から働きはじめました。ただし、夫から「仕事を始めて、家でイライラしてくるようならやめたほうがいいぞ」と、くぎをさされています。

仕事仲間の名前もなかなか覚えられず、仕事の流れもわからなくて、ドジなことばかりしていました。はじめて就職した時もこんなだったのかなあと、遠い昔のことを思い出そうとしたりもしました。また、協力して仕事をしてくるうえでの人間関係の難しさも昔とかわらないと痛感しています。

一日一日が勉強と思い、がんばっている毎日です。



## ○働くおばさん

横浜市

物心ついた頃から「大人になったら働くおばさんになりたい」と何となく思い続けてきた。独身で教師をしている叔母が嫌いと見えたと、家事手伝いから見合い結婚で「専業主婦」になった母が時折ボロリとこぼす「自分に入がったら、とくに離婚していい」とか「夫婦は仲人をして一人前なんだって(パパは出世しないから頼まれぬ)」という言葉がベースになっているのだと思う。子どもの私にとっては温かな家庭だった。だからこそ、母の言葉が子供心にもリアルに聞こえたのだと思う。「自分の収入と社会的な肩書きをもった大人になりたい」と「お嫁さん」に憧れたこともなかった。

色気づいてからは「結婚」を否定することなく、経済的な理由ではなく、好きだから一緒にいる「男性との生活を夢見た。しかし今回、自分は「主婦」としてどう働くか」という思考をしたことがなかった事に気づいた。常に「外で働いている私は、家庭にどう関わっていいかわからない」と反対方向から考えていたのだ。何というエゴイストだろう。現在小学二年生の娘は、人一倍私にべつたりな子だったので、何度も「自分だけのママでいてほしい」と訴えてきた。私は娘に寂しい思いをさせているのがつくづく何度も大泣きした。悩んだ。けれども、仕事をやめる決断はできなかった。今、娘は「大きくなったからお仕事はしないで、お家にいる」と言う。私がそう育てたのだなあ、私がこう母に育てられたように、と思う。



で、子どもを保育園に預けて働きたいのです。本当に自分が好きで責任がある仕事であれば、子どもを人に預ける後ろめたさも薄らぐのでは、との思いもあります。

育児が嫌なのではありません。子どもは大好きです。でも、どんな好きな人とも二十四時間一緒にいると思いがつまるもの。加えて、毎日同じ家事をくり返しながら社会と遮断されてしまった淋しさを感じています。一度でも社会に出て、責任を持って仕事をし、報酬を得た人間が、出産の為に半数以上辞めているという現実。皆遊びたい盛りの子どもを連れて、毎日公園や児童館をめぐっています。何か不自然さを感じます。女性にはいつも社会において確固とした居場所がない様に思えて。もちろん育児に専念するのを心から楽しんでる人も多いと思いますが。

連日の不採用をこぼすと、母が言いました。「この不況下、あなたより時間の拘束のない人々がごまんと応募してくるのに、なんでわざわざ一歳児の親を採用する会社があるの?」

— そんなものかなあ。でも、一歳児の母だからこそ、出来ることもあるはず。希望は捨てずにがんばります。

## ○なぜ再就職するのでしょいうか

堺市

以前は、再就職への興味も関心もほとんどなく子育てが一段落したら趣味やボランティア活動などに自分の時間を費やしたいと思っていました。専業主婦という今の立場にそれなりに満足もしているし、何でもテキパキこなせない要領の悪い私にはそれが合っているか

「働くおばさん」にこだわってきたのは私だけれど、周囲のたくさんの支えがなければ、とてもではないが、ここまで続けることはできなかった。実家の両親の多大なる援助、二人の娘のがんばり、そして、私を主婦ではなく、働く同志として接してくれる夫。

特集に載せる文章を考え始めてから、私は少しだけ、いつもより優しい妻、優しい母になった気がする。昨夜は夫の肩を、いつもの倍位、揉んであげた。思わぬ副産物である。

## ○それでも働き続けたい

品川区

出産前に事情により退職したので保育園事情を考えたらとても再就職は無理、と諦めていました。だから子どもが八ヶ月のとき無認可園に入れ、契約社員として仕事を再開できた時は天にも昇る思いだったのですが、なかなかスキルアップまで及ばず二年後の昨秋に失職してしまいました。いつも「次の仕事はもらえるか?」という不安一杯で働いていました。現実になったショックは大きく、焦って今の仕事(派遣)に飛びつきました。しかし収入を下げ、長年積んできた経験を取り崩しているような毎日にもふと呆然とすることも。失職したとき「あなたは家計を担っているわけじゃないから(切っても大丈夫ですよ)」ともいわれました。仕事に「主婦の趣味的」「甘さがあつたのか?」今も悶々としています。

保育園育ちの私には仕事と育児の共存はごくごく自然なこと、子どもの頃からどの女の子もこれからはずっと働くんだと思ってい

なあ、とも思います。でも、その一方で知人や友人が仕事を始めたという話を聞くと焦りを感じるのは事実です。イキイキと職場での子供を語る彼女たちを見ると「社会復帰」という恋人を取られたような嫉妬心で心穏やかではないのです。特に「仕事願望」があるわけでもないのにこの気持ちはいったい何?自分でも心底「働きたい!」と思っているのかよくわからないし。ただ単に、子育てのみにあけられる日常への反発心という気もします。

子どもの入園や入学を機に多くの人たちが、再就職をするのはなぜなのでしょう? 子持ち主婦にとつて家事、育児に加えて仕事もするのということは並大抵のことではないと思えます。いくら夫の協力があっても、周囲の人たちや環境、条件に恵まれていても、仕事を持つということがかえり負担の大きさは相当なものだと思えます。そんなしんどい思いをしてまでも「働きたい」あるいは「働きたい」と思うはなぜなのでしょう? 自分自身にしかかかってみても、はつきりとした答えはなく、ただなんとなく時代のそういう波に流されているだけのように思うのです。

## ○いつかは就きたいものなのであるが...

仙台市

専業主婦は、最近肩身が狭い。「お子さん小さいものね」なんて言われたりしながらも、それでも働いている人は働いてるんで、多分きつと子持ちで働くことは世にも不可能なことではないのであろう。

でも、私は職を持っていない。仕事...もち

ました。「子どもとずっと一緒にいてやること」がそんなに値打ちがあるとは思えず、その辺りの葛藤が実はあまり理解できていません。ただ、「働くから預け先を探す」のではなく、「いい保育園があったから仕事に戻る」という決め方ができたことは、再就職した数少ないメリットだったと思っています。

今は「ここまで待遇も落ちたのなら意地でも働き続ける」とことにしがみついている。「子どもを退園させない」とか「仕事が仕事への執念にもなっています。世間からみれば「そこまでして働く?」とあきられるかもしれないし、保育園のお母さんに劣等感を感じてどんよりすることもあるかもしれませんが、全然かっこよくないけど、それでもどっこい、在職中」です。

## ○ただいま求職中

文京区

前にいた会社は女性が働き続けやすい企業でしたが、体調不良で休職中に妊娠がわかり、つわりも入院寸前になる程ひどかったため退職を決意しました。その後も再就職したいと思いつながら目の前の育児に追われて、気がつくとも一年半が経過していました。

ここ四ヶ月ほど希望の業種の求人があると履歴書を送っていますが、全てなしのつづて。年齢も経験もさして問題がないはずなのに、面接にも呼ばれないのは、やはり幼い子どもを抱えているせいなのか?と暗くなってしまう。アルバイトやパートでやってみたらと言う人もいますが、私は細かい事務が苦手です。できれば補助的ではない仕事に就い

ろんしたい。お金は大好きなんである。興味好奇心は四方八方にある。資本が多いにこしたことはない。ぶっちゃけ、あんふぁんての会員であるためにもいくばくかの資金がいるのだ。そして残念なことに、私は「夫はわたしのために働いてくれてるんだから、わたくしが消費するのは当然のこと」という考え方は持てない性質で、自分の思うようにお金を使うのは結構シンドイ。資本社会の中においては、経済力は権力という面を持っているのはまあ当たり前なんだけれども、それを家庭内で夫に対して感じてしまうとどうにもやりきれない。そんなことを考える方がオカシイ、と実家の専業主婦歴十年の実母は言うのだが、そんなことがあるものか。

それならば、就職情報誌を片手にハローワークに飛び込むか、といえどそんなこともしていない。だって、幼稚園の役員引き受けちゃったんだもん。小学校も執行部に入ってしまったんだもん。みんなみんな「仕事で...」って、引き受けてくれないんだもん。そのくせあるとき、とある有識主婦から、「好きで役員なんかして、タノシイですわねえ」と遠回しに言われたときには、あたし涙が出たわよ。そのうえ学童は空気がない、実家は遠い、幼稚園の預かり保育は不定期に休業するし...みんなどうやって仕事に飛び立っているんだ?...

いつか私にも、自分のために時間と体を使える日がくるのだろうか。そんな、天を仰いで口を開けるだけのうなずには恵みの雨は降ってこないものかな。





## ○今は種まきの時期

武蔵野市

出産しても仕事を続ける自分しか思い描けなかった私だが、いくつかの条件が重なって、長男を妊娠中に退職した。

夫の転勤で地方へ。しばらくのんびり子育てもいいものという思いと、早く再就職しなくちゃという焦りが常に同居していた。

それでも一歩が踏み出せない自分にふがいなさを感じながら、仕事につながるような勉強や資格取得を少しずつやってきた。子育てにどっぷり浸かる潔さもなく、今の私は仮の姿だ、種まきの時期なのだと思うことで、なんとか自分を保っていた。

あんふぁんての中のグループ、「WEDDO」女と仕事を考える会に入会したのも、この心のもやもやを整理するためだった。

第三子出産後、再び以前住んでいた地域へ戻ってきた。子どもを持ちながら今も仕事を続けている、前の職場の仲間と再会。そのいきいきとした姿を見て、触発されている。退職して、未知の土地での暮らしを経験したことを決して後悔はしていないが、彼女たちを見ると「継続は力なり」だなあとつくづく感じる。そして今、自分の興味ある分野の人々との出会いをいくつも経験し、不思議な縁も感じている。

うまく説明できないが、その縁、勉強、以前の仕事など、バラバラなものがなんとなくつながり始めている。「なんとなく」で、決めた手に欠けるのだが、今年はそれを具体的な仕事に結びつけるべく、積極的に動くつもり。

## ☆特集を担当して

今回の特集づくりを通して私は改めて「自分の生き方と仕事」を考えさせられました。アンケートを作った頃、私は再就職のノウハウばかりに目がいってました。働き方のお手本やルールを探していました。そうじゃないんですよね。働く事の意味は人それぞれなのに、大変とか楽とか、どんな働き方がいいのかとか表面ばかり見ていました。働くのは誰のためでもない、自分のためなのに。

こうして気持ちを整理していくうちに「再就職」の特集を企画しながら変かもしれないけど、今の私は家に居る事が心地よい。これが本心だと改めて感じました。だから、働きたいふりをするのやめました。あせるのやめました。でも、今と想ったら働けるパワーとやりたい仕事に就くための努力だけは続けていきたい。そう思っています。

最後に特集づくり協力してくださった方々、本当にありがとうございます。そしてメンバーの皆さん、メールのやりとりだけじゃなく、いつか集まって座談会でもやりましょうね。

(金子)

同年代の子持ち女性なのに、仕事に対する考えが、こうも様々であることに驚き、そして「だからいいんだ」と思いました。様々な考えを交換し、自分の内面を耕す糧にする。あんふぁんてならではの編集になったのでは？と何度も原稿を読み返しています。

(吉田)

同世代といえど、仕事・家事・育児についてこんなにも感じ方が違うのだなあ、と改めて思いました。それぞれにみんな真剣だからこそともすれば衝突してしまうのですね。あの人は専業主婦だから、仕事しているから、というフィルターなしにいろいろな人と接していきたいです。

(三光)

今回の特集で改めて皆さんの仕事に対する色々な思いに触れることができました。働きたい理由も状況もそれぞれ違います。自分らしく過ごしたいという気持ちは共通しているように思いました。私自身仕事についても一度考えてみるいい機会となりました。

(西尾)

昔見たドラマで、恋人に「君は普通の女の子なんだから結婚したら家庭に入れ」と言われたヒロイン(今井美樹)が、「普通の女の子がどうして仕事しなきゃいけないの」と反発し、「そうさそうさ」と共感したのを思い出しました。普通の女性の再就職、特別なことではないはずですよ。

(伊藤)



## 平和な世界を創るために

## とりあえず「イラク攻撃NO」を

表明してきたよ

大田区

一月十八日土曜、アメリカから日本までを含む世界の各地で「戦争反対」「イラク攻撃NO」のデモ、集会が開催された(この日アメリカ・ワシントンのデモには三十万人が集まったとか)。日本の各地でも行なわれたアクションだが、東京では日比谷公園にて、平和へのメッセージを歌や演奏に託したコンサートから始まった。

この後、日比谷公園から銀座をぐるりと一周するピースパレードを行ない、野音に戻っての集会では、たくさんの人々が次々と舞台上がって意見表明を行ない、最後は喜納昌吉さんの三線に合わせ舞台と会場が一体となつて、「WORLD PEACE」「ええじゃないか!ええじゃないか!」と声を上げながらカチャーシーの踊りで幕を閉じたい。

このうち、私たちが参加したのは、ピースパレードだけ。軟弱モノの私は、「行きたいけど一人じゃなあ」とへあんふぁんて平和を創る会~Mで「誰か行かない?」と呼びかけ、応えてくれた末本 と共に、あんふぁんて仲間の野田 ちゃんを誘い、三人でランチを楽しんだ後に参加したからだ。

とても寒い日だったけど、野音に集まったたくさんの人を見て「こんなに大勢の人がイラク攻撃NOを表明しているんだ」と思って、本心に嬉しかった。推定七千人もの人々が集まったにしては、どこも大々的に報道しな

ったが(正田邸はあれっばちの人数で繰り返しTV放映されたことを思うと、報道管制を疑わざるを得ない)、それにしてもいったい今、世界中でどれだけの人が「イラク攻撃NO」「戦争NO」の声を上げていることか。声を上げられなくても心で思っていることか。この事実を、きつとサザナミのように広がり始めてる。そしてその影響は決して小さくない。と、そう信じていた。

ひとつ残念だったのは、この日のヘビースパレードは私が知る「みんな目を開けて、心をつなげてから静かに歩き始める、歩く瞑想のような、歩く祈りのようなピースウォーク」とは違うものだったこと。しかし、そもそも二人の友人にヘビースウォークを体験させてあげたいという私の勝手な期待は、かなりお門違いなモノだったようだ。あの日私たちが参加したのは私が知っているCHANCE!主催のヘビースウォークではなく、「イラク攻撃反対」という思いのもと、多くの団体が集った大々的なイベントの中のヘビースパレードだったのだから。

それでも、とりあえず大事な友人と共に、「イラク攻撃NO」を表明できて良かったと思う。あの日はありもののWORLD PEACEのプラカードを持たせてもらったけど、後から思えば「なんでイラクの人々を殺すの?」「アメリカさん、あなたも警察を受けなさい」とか何とか、手づくりのプラカードを用意していけばよかった。まあとにかく、これからはこうして、自分にできることを見つけて何かしらやっていこう、と思っ

## ★十月に実施した平和についての

## アンケート回答より③

\*権力のある国、富のある国は権力を振りかざしてはならない。

\*戦争で使うお金を、難民・貧しい国にあてるとよいが、それぞれの国の考え方で難しいと思う。

\*自分一人だけではとても何も出来ないと思う。「世界中みんな仲良く」はなかなか難しいと思うが、お互いに共存していこうという姿勢が大事ではないだろうか。

\*大したことは出来ないが戦争という武力で解決しようという手段を使えることがどんなにバカらしいか、少なくとも自分の子どもには教えない。子どもにNHKの「週刊こどもニュース」を見るように勧めている。

\*相手にも命がある。そして、その人をかけがえが無いと思っている人がいる。それがわかっていけば殺人はないし、戦争する発想は出てこないと思う。そのことを周りの人に言っていくだけ。

※まとめ あんふぁんて・平和を創る会





小さい頃から「お嫁さんになりたい」と夢見ることもなく、とにかく「仕事をしたいなあ」と思っていたし、ずっと働き続けるつもりでいました。でも結婚し遠くへ来てしまったので、それまでの仕事を辞めざるをえず、専業主婦歴七年となっていました。

仕事をしたいという夢を現実に…

尾花沢市

私はフリーランスの絵描きです。一般的に「仕事をする」はお勤めをすると思われているので、私のように家に居て絵を描いているのはただの趣味としか思われていません。もっと収入が増えれば「仕事」になるのか、その辺の線引きは曖昧です。これからは自宅でもさまざまな形態で仕事をしていく人が増えるのではないかと思っています。

そんな私、今までは絵を描くことで人の役に立てるとはあまり思っていなかったのですが、先日介護をしている方が私の絵を買って下さった時、「この絵は自分の部屋にではなく、介護をしている部屋に飾るの。そして、介護をしている自分を癒して励ますのよ」とおっしゃいました。絵が人の役に立つことができるのだと知り、自分自身も励まされました。

仕事についての嬉しい体験

牛久市

あんふぁんてから

あんふぁんてへ



あんふぁんて

イベント報告



◆あんふぁんて・としま 企画運営の

豊島区教育委員会委嘱学級◆

豊島区

今回のテーマは「私の愛する豊島」でしたので、大正七年に豊島区内で出版された鈴木三重吉主幹の児童文学雑誌『赤い鳥』にちなみ、三つの形式で表現しました。準備段階で幾代さんに相談に行き、直接鈴木三重吉氏長女の鈴木すずさんと会う幸運に恵まれました。

第一回（十一月二十七日）は、講師として鈴木すずさんが卒業した目白幼稚園元園長で今は和実学園々長の和田淑（よし）先生を招き、親子一緒に話を聞きました。現在九十才の和田先生の少女時代の読書のことや童謡の事などを聞きました。

第二回（十一月三十日・十二月一日の二日間）は、区立目白庭園赤鳥庵で錦花池坊家元加藤典舟指導で『赤い鳥』いけ花展を行いました。琴演奏は高木藤晴先生でした。

第三回（十二月二十一日）は重要文化財の自由学園講堂で、声楽家の横井早苗先生の独唱で、『赤い鳥』を中心に十二曲の童謡コンサートを楽しみました。教室に移動して、『赤い鳥』の朗読は、「あじさいの会」の磯崎登代先生による鈴木三重吉作の「ばっばのお手帳」で、娘すず子への深い愛情に満ちた

作品。『赤い鳥』の童話と童謡は今も私たちの心に生き続けています。

◆◆参加者の感想から◆◆

『赤い鳥』をいける

—錦花池坊いけ花展に行つて—

・私のお母さんは前に生け花を習っていて、その生け花の先生の展覧会があったので行きました。先生の展覧会は「目白庭園」で行っていて、とてもきれいで和風の感じがしました。赤鳥庵に入っていると、廊下にも部屋にも可愛くまとまっている作品やきれいな作品があつて、すごいなあと思いました。

外には着物地とお花の作品や柿を使っている作品があり、ハデできれいでした。そして『いけ花体験』もやりました。いけ花展覧会の題名が『赤い鳥』をいける」ということで、赤い実と小菊で投げ入れという体験をしました。『赤い鳥』という歌があると教えてもらいましたが、私は知らなかったです。少しいけ花はむずかしかったけど、楽しくできて嬉しかったです。

あとひとつ「お琴体験」もやってみました。むずかしそうだなあと思いましたが、意外に楽しくできてきれいな音を出せて良かったです。私は「さくら」という曲を少しおぼえま

した。私は「目白庭園」に行っているいろいろな体験をすることが出来ました。いけ花やお琴は今ではなかなか体験学習することができにくいものなので、楽しく体験することができて良かったと思います。

豊島区立目白小学校

『赤い鳥』を歌う

—自由学園講堂でのコンサートに行つて—

・映画館みたいにきれいなところだった。うたがすてき。『赤い鳥』に色々な色がでてきたので、カラフルみたいでした。

豊島区立駒込第二保育園園長

・伴奏の人と歌う人の気があつていてきれいでした。会場が見やすかったです。外は雨なのに歌う声が雨の音よりも負けないくらいですごく良かったです。知っている歌が何曲もあったのでわかりやすかったです。

豊島区立仰高小学校

『赤い鳥』の時代に生まれて

—和田淑先生のお話を伺つて—

・和田淑さんが小学生の頃、唱歌の時間に先生が楽譜を黒板に書いて教えてくださったこと（今のようコピーもなければ、謄写版もない時代）など、ゆったりとした柔らかな語り口に引き込まれるように、『赤い鳥』が流れる当時へと旅をしてきました。『目白から雑司ヶ谷の鬼子母神の森まで渡るもの無くほとんど見通せて、夜はよくフクロウの鳴く声が聞こえたこと。表の大きな音と静かで落ち着いた雰囲気の中にこそ、『赤い鳥』の歌が、家の中にも、往來にも、そして人々の心にも、染み渡っていったのじゃないかと感じました。今、あの歌を歌おうとしたら、まずテレビを消さなくては！

豊島区

『子育て広場トライアル』Bコース

「アサーション」に参加して

文京区

やってみました。（アサーション）。以前の職場の同僚が「アサーション」というのを研修でやった時、自分の意見を主張するっていうゲームで喋りまくってたら「あなたのやり方は攻撃的です」なんて言われちゃった。主張しろっていうからガンガン言ったのにさ！」なんて話していたので、アサーションという言葉は耳にしたことがありました。

当日は、井上さん作成のプリントを見ながら説明を聞き、「なるほど、アサーションってのは、自分の気持ちや考えを率直にその場にふさわしい形で伝える事ね。こっちは言うだけじゃなくて相手に同じように率直に発言してもらいたいことも大事なのね」と納得。自分自身を振り返ってみると、率直に言うのは少しづつ達成しつつあるけど、このへその場にふさわしい形で…っていうのは今後の課題だよなあ、と心の中でつぶやきました。

午後は、例題「子どもを裸足で遊ばせていた時「我が子が真似するのでやめて」と言われちゃった？」について参加者（三人）&井上さんと話し合い。：相手に何を言いたいのかを考えていると、自分がどう考えているか（感じているか）が見えてくる感じ。皆で話しているところ、お、そういう見方もあるのか」という発見もある。有意義な四時間でした。こういうのってひとつのスキル（技術）だから、練習を積むとスキル・アップして良いことがありそうです。また、やりましょう！



## 情報コーナー

●ろう者と聴者が共につくる人形劇団

「デフ・パペットシアター・ひとみ」親子

向け公演「泣き虫桃太郎」(於青山山形劇場)

※手話や文字パネルでもセリフを表現します。

3月18日(火)〜20日(木)

(前売り)大人3000円・子供(4才〜中学生)

2000円(当日券はそれぞれ+500円)

3才以下の子は膝の上で。劇場のある「子ども

の城」には授乳室やおむつかえコーナーあり。

申込は同劇団まで。

●子育て広場トリアル

3月26日(水)10時〜2時 池袋駅隣エポック10

保育室&会議室 \*子連れは15分前集合

3時までワーク報告と引継ぎ

Aコース・子どもと一緒遊ぶ「いろいろな

子と接し、子どもとの関わり方を体験」

Bコース・子どもと離れてしゃべりB A(場)

【今回のテーマ】おやつは味しているのに、

祖父母が「きげん取りにガムやチョコ・アメ

などを与えてしまう。こんな時どうする？」

Cコース・子どもを預けてタウンワーク

【子どもと離れてリフレッシュ・タイム】

・参加費・500円(資料代+保険代)

・保育定員7名、子ども一人2000円

(保育カード、保険証・昼食・着替え必要)

・初回はAコースから参加。Bコースは大人の

みの参加も歓迎。

申込〆切・3月19日(水)までに事務局へ。

●井の頭公園で大道芸とお花見を!

3月29日(土)11時 野外ステージ集合

(JR・井の頭線吉祥寺駅下車徒歩7分)

都公認の神田さんの大道芸を楽しむ、

親子でお花見しましょう。(練馬区 本橋)

弁当・水筒・敷物・着替え持参。大雨中止

申込は3月26日(水)までに事務局へ。

●健康学園児童作品フェスティバル

3月15日(土)〜23日(日)9時〜5時

渋谷の東京都児童会館地下展示コーナー

(初日は1時から、最終日は4時まで)

健康学園は東京の区立でありながら、

千葉など自然の多い地域にある、全寮制

小学校です。入場無料。(豊島区 井上)

●事務局から

●特集スタッフ急募。誰か手を挙げて!

●2月末現在の会員数は302名です。

●スケジュールメモ

3月17日(月)ミーティング (事務局)

4月7日(月)4月号号送作業 (事務局)

※ミーティングや発送は10時半から3時

程度、子連れ可、弁当持参。参加希望者

は事前に事務局まで連絡ください。

●あんふぁんては会費のみで運営してい

る会。会費の支払いがまだの人は、至

至急振込をお願いします。会費が切れ

ても本人から連絡がないと、退会・休

会措置がとれません。休・退会・転居

などの時は、事務局まで連絡を。

あんふぁんてホームページアドレス <http://>

事務局までの地図

第286号 (毎月1回5日発行)  
2003年3月5日発行  
(1975年7月26日初刊発行)

あんふぁんて 3月号

発行人 /  
発行所 / あんふぁんて出版部

電話  
(☎平日12時〜2時 それ以外FAX)  
定価 / 500円  
振替口座 /  
加入者名 / あんふぁんての会

☆当会について詳細を知りたい場合、封  
書に〒・住所・氏名・☎を明記し、切手  
四百円分(なるべく少額切手)を送って  
下さい。入会希望の場合はなるべく会費  
六ヶ月分(三千円)以上まとめて、郵便  
局の振替口座に払い込んで下さい。

©本誌掲載記事の無断転載を禁じます。